

増毛山道完全再生へ

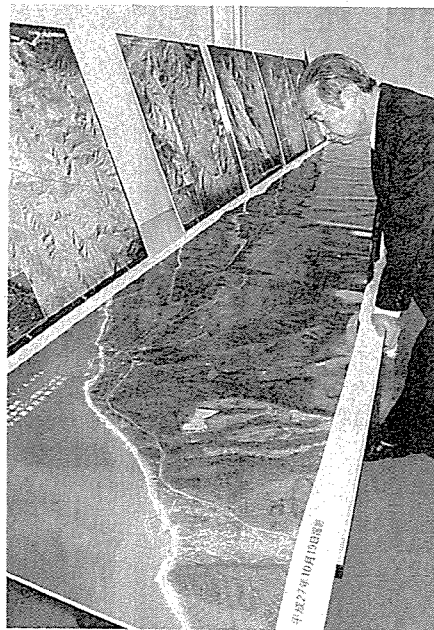
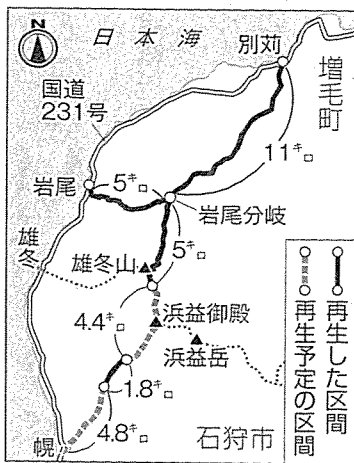
江戸末期開削の歴史 10月にも開通

【増毛】江戸末期に開かれた増毛山道(留萌管内増毛町別刈―石狩市浜益区幌、27キ)の再生作業が10月までに完了し、全区間開通する見通しとなった。2008年にササ刈りをはじめ以来、8年の歳月を経て往時の山道がよみがえる。

増毛町で23日開かれたNPO法人「増毛山道の会」(伊達東会長、会員217

人)の総会で本年度の事業計画として承認された。増毛山道は、北方警備の

必要性を感じた江戸幕府から兵員輸送路確保の命を受け、交易商の伊達林右衛門



が1857年(安政4年)に私費で開削。明治期には貴重な陸路として活用された。海側の国道開通により廃れ、草木が生い茂り通行不能になっていた。山道には、1等水準点の標石や、郵便物の中継に使われた武好駅跡などがあり、増毛山道の会の小杉忠

利事務局長(75)は「当時のものがこれほど残っている山道は道内にはほかにな」と話す。同会と留萌振興局は航空写真や測量データなどを頼りに08年、ササ刈りに着手。10年に別刈―岩尾分岐(約11キ)、14年に岩尾分岐―雄冬山山頂付近(約5キ)、

増毛山道の航空写真を見ながら全区間の再生を心待ちにする伊達会長

15年に石狩市内の1・8キを再生させた。残りの区間は、増毛町と石狩市の境界線付近、石狩市内の2区間計9・2キ。石狩市などの協力を得て5月下旬にササ刈りを開始し、遅くとも10月末までには再生を完了させるとい

う。伊達林右衛門の子孫で増毛山道の会会長の伊達東さん(82)は「わずかな痕跡を頼りにササ刈りを進めてきたが、これほど早く再生できるとは信じられない」と話した。